

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ №1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 №357

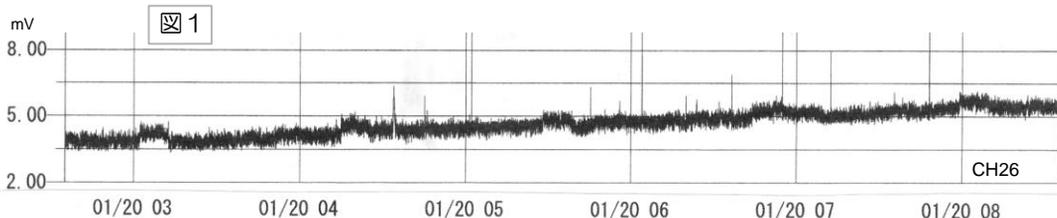
2024.02/12 (月曜) 15:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所

Yatsugatake South Base Observatory 〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、№1778前兆は28年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。№1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。№1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様に№1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。№1778に関しては解説資料32~35頁参照

PBF特異に直前特異出現観測 → 5月9日±3 発生の可能性示す



◆2024.1/21.5を中心に八ヶ岳のCH26に約70分周期のPBF特異が出現
◆2022.7/23.5PBF特異極大に対する直前特異の可能性認識

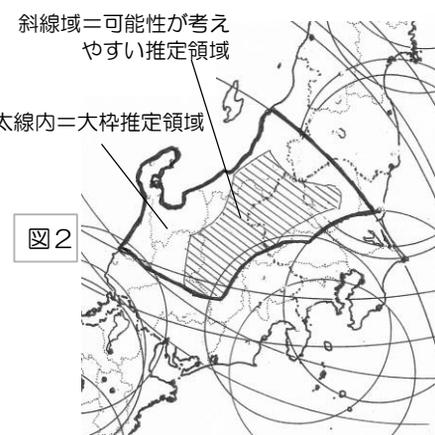
- ① 2022.07/23.5 (CH26PBF特異極大) → 2024.01/21.5 (CH26PBF特異直前特異) Tmap:Tpa=6:1 経験則
→ **2024.5/9 ± 3 発生推定**
- ② 2023.08/29.0 (CH20特異初現) → 2023.11/26.0 (A2-PBF極大) Tfp:Tmap=20:13 経験則
→ **2024.5/9 ± 3 発生推定**
- ③ 2023.07/13.0 (噴火型主極大) → 2023.09/23.0 (噴火型副極大) Tmap:Tps=4.2:1 経験則
→ **2024.5/10 ± 5 発生推定**

続報№355では、八ヶ岳のCH26-PBF特異の完全終息を2023.12/17.5の可能性で計算し、対応地震発生の可能性を2024.6/9±3としました。しかし、表題及び図1波形のとおり、八ヶ岳のCH26に70分周期のPBF特異が短期間出現しました。この変動は直前特異としか考えようがありません。CH26のPBF特異の極大は2022.7/23.5(再調査結果)でこの極大に今回の直前特異出現を対応させますと、上記①のとおり、2024.5/9±3発生の可能性が計算されます。このことから、CH26-PBF特異は2023.11/20以降は休止期間が長く断続的短時間の出現でしたが、前述の認識が正しい場合は、11/20以降に終息があったこととなります。

また、№1778前兆の2022年以降の再調査で、断続的出現だった八ヶ岳のCH20特異は2023.8/29から継続出現となっています。この2023.8/29を初現とし、2023.11/26中心に出現した秋田観測点のA2-PBFを極大としますと、上記②のとおり、同じ5/9±3発生の可能性が計算されます。

2023.7/13主極大、2023.9/23副極大認識で観測された噴火型前兆変動(噴火に至る訳ではなく熊本地震と同様に火山近傍での大型地震の前兆変動として出現認識)は主極大が長く、過去例のある、考えやすいTmap:Tps=4.2:1の比率で計算しますと上記③のとおり、5/10±5発生の可能性が計算されます。

いずれにしても、1/21.5極大で出現したPBF特異は直前特異以外考えられませんが、発生時期は5/9±3である可能性が極めて高い見解です。なお、このことは日々配信の観測情報では1月下旬に既に公表済みです。今後変化が観測される可能性がある変動は右枠内に記しました。



№1778 推定領域図



№1778 可能性が考えやすい推定領域内の主な火山

- 1) CH32-BT特異終息 = 03/03±3の可能性
- 2) CH20、21特異終息 = 03/28±3の可能性
- 3) A2-PBFに直前特異出現の場合 = 04/12±3の可能性

◆推定領域：図2の太線領域内(大枠推定領域)
図2斜線領域：可能性が考えやすい領域
火山近傍領域の可能性が考えやすい

◆推定規模：M8.0±0.3

◆推定時期：2024年5月9日±3日
※今後の観測で修正が必要な場合は続報

◇推定地震種：震源浅い内陸地殻地震
◇推定発生時刻：午前9時±2時間 又は 午後6時±3時間